米国におけるエルサルバドル系二重国籍者の政治意識・政治行動：2012年２～３月および８月にロサンゼルスで実施したアンケート調査の結果から

中　川　正　紀・中　川　智　彦

１．はじめに

米国では、1990年代半ばから、外国生まれの「帰化」志向が強まっている。なかでも、ラテンアメリカ出身者の「帰化」人口総数は、1995～2005年の10年間に約202万から440万へと倍増した。一方において、自国民に二重国籍を法的に容認することを定めるラテンアメリカ諸国が1990年代に続出し、それ以前に法的容認を定めていたエルサルバドルを含む４か国に加え、あらたにコロンビアをはじめとする６か国が「二重国籍の法的容認諸国」に仲間入りした。さらに、これとセットの形で在外国民に出身本国の選挙での投票権を付与しようとする動きも本国側で目立っている。(1)

このような二重国籍者の増加傾向のなかで、近年、二重国籍者の米国政治制度に対する政治的忠誠心をめぐって研究者の間で議論が起こっている。一方の側の伝統主義論者たちには、『文明の衝突』の著者として有名なサミュエル・P・ハンティントン（Samuel P. Huntington）も名を連ね、「二重国籍は文化的同化や政治的参加への誘因を衰退させる」と唱える。また、なかには、二重国籍は「二重結婚に似た状態であり、アメリカ合衆国に対する誓約に根本的に背くことになる」とまで主張する者もいる。総じて、伝統主義者らは二重国籍という制度に対して悲観的な立場を取っている。(2)

他方、トランスナショナルな観点からこの問題を捉える研究者らは、二重国籍容認制度を肯定的に考える。二重国籍を容認することは、「ホスト国への同化や政治的統合を妨げることにはならず、（中略）国境を越えた労働者の往来を今以上に盛んにし、出身国との結びつきを持続させる」ことになる、とかれらは主張する。(3)

この論争について、ジェフリー・K・ステイトン（Jeffrey K. Staton）らは、

2007年5月発表の学術論文において、次のように述べる。このような論争は研究者どうしの見解の相違に基づく対立にすぎず、少数の例外を除き、実証研究による強力な裏付けが求められる、と。(4)

主に移民一世たちのアメリカ合衆国への「政治的結びつき（political connectedness）」に関する実証研究が必要とされるなか、筆者はこれまで共同研究者とともに、全米のラテン系の中でメキシコ系、プエルトリコ系、キューバ系に次ぎ、現在、数において第4の人口規模の集団となっているエルサルバドル系の政治意識・政治行動についての実態調査に基づいた研究を、2010年以来、試みてきている。これまでのところ、現地でのアンケート予備調査（パイロット調査）を2010年8～9月（「2010年予備調査」）、および2012年2～3月、8月（「2012年予備調査」として合体）と、2回行っているが、時間的・実働人員的制約の壁に阻まれて、統計学上適切とされる合計2,000人分のアンケート回収はいまだ実現していない。(5)

従来、在米エルサルバドル系住民の政治意識・政治行動に関しては、限定数のインフォーマントを対象とする、主に文化人類学的観点からの定質的分析による研究にはかなりの蓄積がある。一方、比較的多数の被験者を対象とした、社会学・政治学などによる定量的分析を用いて、しかもエルサルバドル系の最大居住地、ロサンゼルスをフィールドの中心とした実証研究はあまり行われていないようである。(6)

筆者らは、2010年8～9月に実施したアンケート予備調査（有効回答数：92）の結果に基づいた、2011年3月発表の学術論文(7)において、エルサルバドル系については、二重国籍者（米国市民）の方が永住権保持者よりも米国政治と本国政治の両方に関心がある人の割合が高いのではないか、という仮説を導いた。しかし、このときの予備調査には、次の点で決定的な限界があったと言わざるを得ない。すなわち、全体的な有効回答者数が少なかったことに加え、二重国籍者の回答者数が14名と極端に少なかったことである。また、内容的にも米国選挙政治および本国選挙政治への関心と米国における「非選挙政治」(8)への参与との関係という部分的な視点にとどまり、回答者の本国での選挙政治行動および「非選挙政治」行動での経験というバックグラウンド、そして米国の選挙政治に関わる行動の経験（二重国籍者に限る）、さらに米国での「非選挙政治」への関与度に

影響する様々な要因に対する考察が欠けていたといえる。

本稿で用いる2012年２～３月・８月実施の予備調査のデータは、以上のような限界を考慮に入れ、エルサルバドル系住民の政治意識・政治行動をより多面的に捉えようとする試みの結果として、得られたものである。今回の有効回答数は339名（男性：184, 女性：155）としているが、質問によっては無回答ゆえにデータとしての有効性が得られず、数に入れなかった場合もあることをお断りしておきたい。また、アンケート回収地を主にイベント開催地や行政機関に設定したため、回答者にはカリフォルニア州在住者でもましてやロサンゼルス在住者でもない、他州の居住者（2名）が含まれていることも付け加えておきたい。

こうして、在米サルバドル系住民の多くが居住するロサンゼルスをフィールドに据え、この地域のサルバドル系を理解することがまずは全米のかれらの実情を把握することにつながると考える。

２．目的

米国における二重国籍者の政治的関心および政治行動と、かれらの出身国あるいはホスト国である米国との関係とはいかなる結びつきを持っているのであろうか。このことについて探るべく、近年、米国カリフォルニア州ロサンゼルス地域で急増しつつあるエルサルバドル系住民を対象とした、2012年２～３月および８月の実地調査の結果を分析し、特に二重国籍者に焦点を絞り、その政治的アイデンティティの現状とそれに影響を与える諸要因を探る。その際、前回の2010年８月の実地調査と比べ、今回は回答者の本国での選挙・「非選挙」政治行動の経験および送金や訪問による本国との結びつき等も政治意識・政治行動の重要な決定要因として考えられるかどうか、について合わせて検討する。なお、分析の対象の中心は二重国籍者であるが、本稿ではその都度、比較の意味で他の法的身分の人々のデータも可能な限り、合わせて提示するようにしたい。

３．調査方法・地域

①日　　時：2012年２月25日～３月３日（８日間）
　対　　象：18歳以上の在米エルサルバドル系住民
　地　　域：中米系が主な顧客のLA市内の商業施設とその周辺、在LAエル

サルバドル領事館の待合室およびセントラルLAのバーモント通りでの本国政党員による政治活動の場にて。

方　　法：回答者の法的権利保証やプライバシー保護について説明した後、回答を承諾した人を対象にアンケート調査を行う。回答時間の目安は、1人約20分。質問内容については、本稿末尾参照。なお、使用したアンケート用紙は①ではスペイン語版のみであったが、①の実施時点で英語版の必要性を感じ、②では英語版も導入した。

有効回答数：197。

②日　　時：2012年8月3日～12日（10日間）

対　　象：①に同じ。

地　　域：8月3日（金）～5日（日）にLAダウンタウンで開催されたエルサルバドル系の大祝祭であるFiesta Agostina「八月祭」の2会場（McCarthur Park会場およびワシントン大通り会場）。その他の時期は、在LAエルサルバドル領事館の待合室、中米系住民対象のサッカー教室、および在LAエルサルバドル系ビジネス関係者のパーティの場にて。

方　　法：①に同じ。

有効回答数：142。

4．調査結果と分析

(1) 法的身分と政治的関心の関係

まずは、Q31とQ33で得られた政治的関心度のデータを、Q 9・10で得られた法的身分のデータとクロスさせて得られたのが表1である。

比率で見る限り、「両国政治に無関心ではない」者は、どの法的身分でも大半を占めるが、米国政治に有権者として参加できる唯一の身分である二重国籍者においてその割合が最も高い（93.5%）。米国籍を取得しても本国政治への関心はほとんどなくならないか、むしろ増すということなのであろうか。

では、この差をもたらしたと考えられる背景を様々な角度から以下で検討する。

表１　法的身分別の政治的関心（Q31・33、Q9・10の回答に基づいて作成）

法的身分[9]	両国の政治に無関心ではない	本国政治にのみ無関心	米国政治にのみ無関心	両国の政治に無関心
米国市民(二重国籍者)	58名(93.5%)	3名(3.3%)	0名(　0%)	1名(1.1%)
永住権保持者	54名(84.4%)	6名(9.7%)	1名(1.6%)	3名(4.7%)
TPS保持者	117名(84.8%)	7名(5.1%)	7名(5.1%)	7名(5.1%)
在留資格なし	58名(79.5%)	6名(8.2%)	7名(9.6%)	2名(2.7%)
全体（337名中）	287名(85.2%)	22名(6.4%)	15名(4.6%)	13名(3.8%)

Q31.で11.「興味がありません」と回答した者を、〈本国の政治に無関心な者〉と判定し、一方、Q33.で６.「興味がありません」と回答した者を、〈米国の政治に無関心な者〉と判定した。ただし、無回答者のデータは含まれていない。

(2) 様々なバックグラウンドとの関係

①本国での政治行動の経験および米国での「非選挙政治」行動との関係

表２において、二重国籍者と永住権保持者を見る限り、そのほとんどがグループⅠ（両国政治に関心がある者）に属し、しかもその大半が本国で選挙での投票経験が多少なりともあると答えている。一方で、本国での政治活動・社会運動その他への参加経験があると回答した者の数は、それほどではない。このことから、少なくとも両国の選挙政治に関心のある回答者には、本国での投票行動の経験者が大半を占めると言ってよい。

他方、米国における「非選挙政治」への参加は全般的にあまりさかんとはいえない。その理由については、あとでデータを使って詳しく見る。

それでは、本国での投票の経験について内訳を見てみよう。表３は、各法的身分別に本国での投票経験に関する回答番号を平均したものである。

表３でポイント平均を比較すると、二重国籍者がやや永住権保持者よりも本国での投票経験の頻度が多かったことが分かる。内訳をみると、「全然ない」の回答率が永住権保持者において高い一方、１～３の肯定的回答ではいずれも、二重国籍者の方が、選択率がやや高くなっている。

表２．米国選挙政治・本国選挙政治への関心度と米国「非選挙政治」・本国「（非）選挙政治」への参加度との関係（Q31、Q33、38-(a)、Q39-(a)、Q32-(a)、Q32-(b) の回答に基づいて作成）

グループ	米国の選挙政治への関心	本国の選挙政治への関心	米国での抗議行動への参加経験	米国でのボラ・コミュ活動への参加経験	本国での投票の経験	本国での政治活動・社会運動その他への参加経験	米国市民	非市民		
							二重国籍者（62名）	永住権保持者（64名）	TPS保持者（138名）	在留資格なし（73名）
Ⅰ	○	○	○	○	○	○		6.3%	0.7%	1.4%
	○	○	○	○	○	×	1.6%		0.7%	
	○	○	○	○	×	○	1.6%			
	○	○	○	○	×	×		1.6%		
	○	○	○	○	無回答	無回答	8.1%			
	○	○	○	×	○	○	1.6%	3.1%	2.9%	1.4%
	○	○	○	×	○	×	1.6%		2.2%	2.7%
	○	○	○	×	未成年	×	1.6%		2.9%	2.7%
	○	○	○	×	×	×			0.7%	1.4%
	○	○	×	○	○	○	4.8%	4.7%	2.9%	4.1%
	○	○	×	○	○	×	12.9%	3.1%	5.8%	4.1%
	○	○	×	○	未成年	×	3.2%	1.6%	2.2%	1.4%
	○	○	×	○	×	○	1.6%			
	○	○	×	○	×	×		3.1%	1.4%	1.4%
	○	○	×	×	○	無回答	4.8%	3.1%	2.2%	1.4%
	○	○	×	×	○	○	4.8%	4.7%	1.4%	4.1%
	○	○	×	×	○	×	9.7%	10.9%	19.6%	20.5%
	○	○	×	×	無回答	無回答	1.6%	3.1%	5.1%	
	○	○	×	×	×	○		1.6%	1.4%	
	○	○	×	×	×	×	3.2%	1.6%	2.9%	
	○	○	×	×	未成年	×	3.2%	6.3%	3.6%	1.4%
Ⅱ	×	○	○	×	○	×			0.7%	
	×	○	×	○	○	○			0.7%	
	×	○	×	○	○	×			0.7%	
	×	○	×	×	○	○			0.7%	1.4%
	×	○	×	○	未成年	○				1.4%
	×	○	×	○	未成年	×				4.1%
	×	○	×	×	○	×			0.7%	1.4%
Ⅲ	○	×	○	×	○	○				1.4%
	○	×	○	×	未成年	×				1.4%
	○	×	×	○	○	×	1.6%			1.4%
	○	×	×	○	×	×			0.7%	1.4%
	○	×	×	×	○	×	1.6%	6.3%	0.7%	1.4%
	○	×	×	×	未成年	×			0.7%	
	○	×	×	×	×	○			0.7%	
	○	×	×	×	×	×			0.7%	
Ⅳ	×	×	○	×	未成年	×				1.4%
	×	×	×	○	×	×			0.7%	
	×	×	×	×	○	×		1.6%	0.7%	
	×	×	×	×	未成年	×	1.6%	1.6%		
	×	×	×	×	×	×		1.6%		1.4%

本国および米国の選挙政治への関心の有無については、それぞれQ31およびQ33の回答に基づく。両国の選挙政治への関心の有無の組み合わせによって、表2．ではⅠ～Ⅳの4つのグループに分けている。次に、Q38-(a)において、4.「いいえ、全然ありません」と答えた者を〈米国での抗議行動への参加経験のない者〉と判定した。Q39-(a)において、2.「いいえ」と答えた者を〈米国でのボラ・コミュ活動への参加経験のない者〉と判定した。さらに、Q32-(a)において、4.「いいえ、ほとんど」および5.「いいえ、まったく」と答えた者を〈本国での投票の経験が少ないか全くない者〉と判定し、6.「いいえ、18歳未満でしたので」と答えた者は〈未成年だった〉として別扱いにした。最後に、Q32-(b)において、4.「いいえ、何にも」と答えた者のみ、〈本国での政治活動・社会運動その他への参加経験のない者〉と判定した。この表では、大まかな傾向がわかるように、二重国籍者と永住権保持者に限り、少数点以下第一位を四捨五入して5％以上になるデータは網がけにして、目立つようにしてある。

また、「無回答」を含む分類のなかで回答者が比較的少ないものについては、省略をし、可能な限り簡略化を目指した。したがって、各法的身分において全体の3分の1ほどの回答者がこの表には載っていないことになる。

表３　本国での投票の頻度（Q32-(a)の回答に基づいて作成）

		二重国籍者（対象者37名）	永住権保持者（対象者42名）	TPS保持者（対象者89名）	在留資格なし（対象者50名）
ポイント平均値		1.89	2.02	2.35	1.76
内訳	1. すべての選挙で	25名（67.6%）	28名（66.7%）		
	2. ほとんどすべて	3名（ 8.1%）	3名（ 7.1%）		
	3. 半分くらい	2名（ 5.4%）	1名（ 2.4%）		
	4. ほとんどない	2名（ 5.4%）	2名（ 4.8%）		
	5. 全然ない	5名（13.5%）	8名（19.0%）		

ポイント値は、選択肢の回答番号をそのまま用いて、各回答内容を平均したものである。よって、数字が小さいほど、投票頻度が高くなることになる。ただし、選択回答中、6および7を選んだ者は対象となっていない。また、無回答者は数に入れていない。

次に、米国への移民以前に本国で参加した経験がある活動・運動の内容を示したのが、表４である。

表４　本国での政治活動、社会運動、およびコミュニティ・ボランティア活動への参加度（Q32-(b)の回答に基づいて作成）

	二重国籍者（62名）	永住権保持者（64名）	TPS保持者（138名）	在留資格なし（73名）
選挙運動に	12名（19.4%）	8名（12.5%）	8名（ 5.8%）	9名（12.3%）
労働・社会運動に	4名（ 6.5%）	4名（ 6.3%）	1名（ 0.7%）	1名（ 1.4%）
コミュニティ・ボランティア活動に	5名（ 8.1%）	8名（12.5%）	12名（ 8.7%）	7名（ 9.6%）
いいえ、何にも	30名（48.4%）	29名（45.3%）	84名（60.9%）	46名（63.0%）
いずれにも該当しない回答	0名（ 0.0%）	0名（ 0.0%）	1名（ 0.7%）	1名（ 1.4%）
無回答	20名（32.3%）	18名（28.1%）	34名（24.6%）	15名（20.6%）

※複数回答可であるため、パーセンテージは100を超える可能性もある。

二重国籍者と永住権保持者を比較すると、前者の方が本国で選挙運動に関わっていた者の占める割合がやや高いと言えよう。一方、後者はコミュニティ・ボランティア活動などの「非選挙政治」への参与者の割合がやや高いと言える。

以上のことから、もともと本国にいたときから政治意識の高い者が比較的多く

を占めるので、二重国籍者でも永住権保持者でも両国の選挙政治に関心を持ちやすいと考えられよう。ただし、次に見るように、米国においては諸般の事情から「非選挙政治」に参加する程度は少なくなるようである。

まず、米国においてストライキや行進その他の抗議行動への参加度を法的身分別におおまかに数字で見てみると、表５のようになる。

表５　米国におけるストライキや行進その他の抗議行動への参加度
（Q36-(a)の回答に基づいて作成）

		二重国籍者（対象60名）	永住権保持者（対象60名）	TPS保持者（対象120名）	在留資格なし（対象68名）
ポイント平均値		3.38	3.65	3.23	3.69
内訳	1. 何度も	8名(13.3%)	4名(6.7%)		
	2. 何回か	4名(6.7%)	4名(6.7%)		
	3. 1～2回	5名(8.3%)	5名(8.3%)		
	4. 全然ない	43名(71.7%)	47名(78.3%)		

ポイントは、選択肢の回答番号をそのまま用いて、各回答を平均したものである。よって、数字が小さいほど、参加度が高くなることになる。ただし、無回答者は数に入れていない。

ここでは、便宜上、二重国籍者と永住権保持者についてしか内訳を設けなかったが、ポイント平均値でみると、TPS 保持者が最も米国での抗議運動への参加度が高いことになるものの、全体的にあまり大差はない。内訳（表５）で見ても、二重国籍者はやや永住権保持者よりも参加経験者率が高く、しかも「何度も」参加したことのある者の割合も 10% を超えている。しかし、いずれも７割から８割の者が、参加経験が「全然ない」と回答している。その理由は、表６に明らかである。

二重国籍者、永住権保持者とも「抗議が好きでない」、「目立ちたくない」という回答が多いが、続いて前者には「混乱や暴力沙汰」を恐れる者、そして後者には「警察沙汰」を恐れる者が多いことがわかる。特に、永住権保持者の場合、米国での犯罪歴などの「悪い」記録が将来の市民権取得のための要件の達成によくない影響を与える可能性、あるいは永住権を剥奪される可能性が否定できないからであろうか。これは「他にもっと有効な手段がある」という回答が多いことと

表６　米国においてストライキや行進その他の抗議行動に参加したことがない理由（Q38-(b) の回答に基づいて作成）

	二重国籍者（不参加者43名中）	永住権保持者（不参加者48名中）	TPS保持者（不参加者100名中）	在留資格なし（不参加者54名中）
1. コミュニティや社会の中で目立ちたくない	14.0%（ 6名）	10.4%（ 5名）	15.0%（15名）	16.7%（ 9名）
2. 警察沙汰になる可能性がある	4.7%（ 2名）	10.4%（ 5名）	6.0%（ 6名）	14.8%（ 8名）
3. 悪く見られたくない	7.0%（ 3名）	6.3%（ 3名）	3.0%（ 3名）	18.5%（10名）
4. 混乱を招いたり暴力沙汰になる可能性がある	16.3%（ 7名）	8.3%（ 4名）	16.0%（16名）	18.5%（10名）
5. (参加したことで) 結果的に職を失った人間が何人もいる	2.3%（ 1名）		4.0%（ 4名）	
6. やっても何も変わらないと思う	9.3%（ 4名）	8.3%（ 4名）	12.0%（12名）	9.3%（ 5名）
7. 他にもっと有効な手段があると思う	7.0%（ 3名）	12.5%（ 6名）	9.0%（ 9名）	13.0%（ 7名）
8. 抗議することが好きではない	16.3%（ 7名）	16.7%（ 8名）	16.0%（16名）	20.4%（11名）
9. そうする機会がなかった、あるいはそうした機会があるのを知らなかった	4.7%（ 2名）	4.2%（ 2名）	3.0%（ 3名）	11.1%（ 6名）
10. 忙しくて、時間的余裕がなかった	9.3%（ 4名）	8.3%（ 4名）	7.0%（ 7名）	18.5%（10名）
11. 忙しくて、精神的に余裕がなかった	2.3%（ 1名）		1.0%（ 1名）	
12. 経済的に苦しくて、精神的に余裕がなかった	2.3%（ 1名）			
13. かつて本国で参加して嫌な思いをした	2.3%（ 1名）			1.9%（ 1名）
14. 渡米してきたばかりで、どうしていいかわからなかった	2.3%（ 1名）	2.1%（ 1名）		1.9%（ 1名）
15. 体力的・健康的に無理だと思った				1.9%（ 1名）
16. 自分は経営者・為政者側の人間、あるいはそれに同調する人間である				
17. いずれにも該当しない回答	9.3%（ 4名）	6.3%（ 3名）	5.0%（ 5名）	3.7%（ 2名）
無回答	27.9%（12名）	12.5%（ 6名）	27.0%（27名）	24.1%（13名）

※複数回答も含める。

も関連して、自らにとって不利な状況を作り出しうる抗議運動をできうる限り避けようとする態度の表れとも見て取れる。

次の表7は、今度は、米国においてボランティア活動やコミュニティ活動に参加しない理由についての回答を整理したものである。

表7　米国でボランティア活動やコミュニティ活動に参加しない理由
（Q39－(c)の回答に基づいて作成）

	二重国籍者（不参加者34名中）	永住権保持者（不参加者47名中）	TPS保持者（不参加者144名中）	在留資格なし（不参加者72名中）
1. 興味がない	17.6%（ 6名）	21.3%（10名）	12.5%（18名）	6.9%（ 5名）
2. する価値がない	2.9%（ 1名）	2.1%（ 1名）	2.1%（ 3名）	1.4%（ 1名）
3. 単にしたくない	23.5%（ 8名）	8.5%（ 4名）	1.4%（ 2名）	4.2%（ 3名）
4. 英語が満足に使えない	14.7%（ 5名）	19.1%（ 9名）	16.0%（23名）	13.9%（10名）
5. スペイン語が満足に使えない		2.1%（ 1名）		
6. 忙しくて、時間的に余裕がない	17.6%（ 6名）	19.1%（ 9名）	20.1%（29名）	19.4%（14名）
7. 忙しくて、精神的に余裕がない		4.3%（ 2名）	1.4%（ 2名）	1.4%（ 1名）
8. 経済的に苦しくて、精神的に余裕がない		2.1%（ 1名）	2.8%（ 4名）	5.6%（ 4名）
9. コミュニティや社会の中で目立ちたくない	5.9%（ 2名）	2.1%（ 1名）		1.4%（ 1名）
10. いずれにも該当しない回答	5.9%（ 2名）	4.3%（ 2名）	2.1%（ 3名）	8.3%（ 6名）
無回答	14.7%（ 5名）	19.1%（ 9名）	18.1%（26名）	19.4%（14名）

※複数回答を入れているため、%は合計して100を超える。

これによると、二重国籍者と永住権保持者とも共通に「興味がない」、「単にしたくない」という活動に対する消極的な回答が多いが、それとともに時間的な余裕のなさ、英語力不足が参加の足かせになっている者が多いこともうかがえる。

②米国での滞在期間との関係

では、次に米国での滞在年数が政治的関心に与える影響について考えてみよう。表８は、法的身分と政治的関心に基づいて、各グループに属する者の米国での滞在年数の平均を表している。これによると、当然ともいえるが、全体的に二重国籍者が永住権保持者よりも滞米年数が長いことが分かる。

表８　米国での平均滞在年数と政治的関心（Q7の回答に基づいて作成）

法的身分	両国の政治に無関心ではない	本国政治にのみ無関心	米国政治にのみ無関心	両国の政治に無関心	全体
米国市民（二重国籍者）	27.7年（58名）	29.7年（ 3名）	——	15.0年（ 1名）	27.6年（62名）
永住権保持者	20.4年（54名）	21.5年（ 6名）	——	14.0年（ 3名）	20.2年（63名）
TPS保持者	15.4年（117名）	16.7年（ 7名）	16.5年（ 6名）	16.4年（ 7名）	15.6年（137名）
在留資格なし	8.6年（58名）	11.0年（ 6名）	5.7年（ 7名）	7.5年（ 2名）	8.5年（73名）

※無回答者のデータは含まれていない。

二重国籍者の滞米年数の内訳を表した表８－１をみると、「両国政治に無関心ではない」者は10年以下から41年以上にまで多岐にわたり、そのなかで21～35年に多くが集中している。「本国政治に無関心」の者は26～35年の間に集中する。

表８－１　米国市民（二重国籍者）の滞米年数の内訳（Q7 の回答に基づいて作成）

年数	両国の政治に無関心ではない	本国政治にのみ無関心	米国政治にのみ無関心	両国の政治に無関心
～ 10年	1名			
11 ～ 15年	4名			1名
16 ～ 20年	1名			
21 ～ 25年	11名			
26 ～ 30年	8名	2名		
31 ～ 35年	16名	1名		
36 ～ 40年	5名			
41 ～ 45年	2名			

※無回答者のデータは含まれていない。

③英語会話能力（自己評価）との関係

続いて、英語話者としての自己判定能力との関係について見てみよう。今回のアンケート調査では、英語話者能力に関する質問が唯一、米国社会への回答者の文化的「同化」度を問う項目と考えられる。表９は、第 14 問の c) の質問に対する回答番号の平均を各グループごとに表したものである。数字が小さい方が、能力が高いことになる。

表９　英語話者能力の評定平均（自己評価）と政治的関心
（Q14-(c) の回答に基づいて作成）

法的身分	両国の政治に無関心ではない	本国政治にのみ無関心	米国政治にのみ無関心	両国の政治に無関心
米国市民(二重国籍者)	2.18（ 50名）	1.67（ 3名）	——	1.00（ 1名）
永住権保持者	2.27（ 52名）	2.30（ 6名）	3.00（ 1名）	3.30（ 3名）
TPS保持者	3.50（105名）	3.00（ 7名）	3.00（ 6名）	2.50（ 7名）
在留資格なし	2.60（ 57名）	2.17（ 6名）	2.86（ 7名）	3.50（ 2名）

※無回答者のデータは含まれていない。

これによると、概ね、二重国籍者の方が永住権保持者よりも能力が高いことがわかる。さらに、二重国籍者のみについての能力の内訳を表９－１でみると、サンプル数の不足の問題はあるものの、「本国政治に無関心」な者の方が、二重国籍者の中では能力が比較的高い傾向にあることが指摘できよう。

表９－１　米国市民（二重国籍者）の英語話者能力の自己評価の内訳
（Q14-(c) の回答に基づいて作成）

自己評価	両国の政治に無関心ではない	本国政治にのみ無関心	米国政治にのみ無関心	両国の政治に無関心
1. とても上手に	17名	1名		1名
2. 上手に	24名	2名		
3. あまり上手ではない	16名			
4. 全く上手ではない	0名			

※無回答者のデータは含まれていない。

④学歴との関係

表 10　学歴と政治的関心（Q11 の回答に基づいて作成）

法的身分	両国の政治に無関心ではない	本国政治にのみ無関心	米国政治にのみ無関心	両国の政治に無関心
米国市民(二重国籍者)	3.20（ 55名）	3.25（ 4名）	——	3.00（ 1名）
永住権保持者	2.86（ 50名）	2.50（ 6名）	2.00（ 1名）	2.30（ 3名）
TPS保持者	2.10（104名）	2.17（ 6名）	2.00（ 6名）	2.29（ 7名）
在留資格なし	3.30（ 60名）	3.00（ 5名）	2.14（ 7名）	1.00（ 2名）

※無回答者、「その他」の回答のデータは含まれていない。

今度は、学歴との関係であるが、表 10 は第 11 問の回答番号の平均をグループごとに示したものである。値が高いほど、学歴が高いことになる。全体的に、二重国籍者の方が永住権保持者よりも平均して学歴が高い。また、二重国籍者の学歴に関する内訳を示した表 10 － 1 をみると、「本国政治にのみ無関心」の者は学

歴では3. ないしは4. の中レベルといえる。しかし、これもサンプルの少なさゆえに一般的傾向といえるかどうか、さらに大きな調査による検討が必要であろう。

表 10－1　米国市民（二重国籍者）の学歴の内訳（Q11の回答に基づいて作成）

学歴レベル	両国の政治に無関心ではない	本国政治にのみ無関心	米国政治にのみ無関心	両国の政治に無関心
1. 基礎教育またはそれ以下	8名			
2. 高校中退	7名			
3. 高校卒業またはそれと同等の資格	20名	3名		1名
4. 準学士あるいは大学・短大中退	9名	1名		
5. 4年生大学卒業	8名			
6. 大学院進学以上	3名			
7. その他	2名			

※無回答者、「その他」の回答のデータは含まれていない。

⑤年間世帯所得との関係

表 11　年間世帯所得と政治的関心（Q15の回答に基づいて作成）

法的身分	両国の政治に無関心ではない	本国政治にのみ無関心	米国政治にのみ無関心	両国の政治に無関心
米国市民(二重国籍者)	7.04（ 50名）	9.25（ 4名）	――	――
永住権保持者	5.55（ 51名）	6.17（ 6名）	――	1.00（ 1名）
TPS保持者	5.00（ 84名）	3.29（ 7名）	3.00（ 6名）	4.00（ 7名）
在留資格なし	4.04（ 57名）	4.00（ 5名）	3.71（ 7名）	4.00（ 2名）

※選択回答のうち、19.「答えたくありません」あるいは20.「正確にわかりません」と回答した者および無回答者のデータは含まれていない。

次は、年間世帯所得との関係である。これは、第15問の回答に基づいて作成した表11を参照願いたい。選択番号1.～18. のいずれかを選択した者の回答番号の平均をグループごとに示したものである。これによると、全体的に、二重国籍者の方が永住権保持者よりも平均して年収が高いことが分かる。さらに目立つのが、二重国籍者においては、「本国政治にのみ無関心」の者の方が「両国の政

治に無関心でない」者よりも平均して年収が断然高いということであるが、内訳を表11－1でみると、かなりのばらつきがあって、特徴的なことは見いだせそうにない。

表 11－1　米国市民（二重国籍者）（Q15 の回答に基づいて作成）

年間世帯所得	両国の政治に無関心ではない	本国政治にのみ無関心	米国政治にのみ無関心	両国の政治に無関心
1）$10,000未満	5名			
2）$10,000~$14,999	2名			
3）$15,000~$19,999	5名	1名		
4）$20,000~$24,999	5名			
5）$25,000~$29,999	4名			
6）$30,000~$34,999	4名			
7）$35,000~$39,999	4名			
8）$40,000~$44,999	4名	1名		
9）$45,000~$49,999	2名			
10）$50,000~$54,999	2名			
11）$55,000~$59,999	1名			
12）$60,000~$64,999	1名	1名		
13）$65,000~$69,999	2名			
14）$70,000~$74,999	1名	1名		
15）$75,000~$99,999	3名			
16）$100,000~$149,999	4名			
17）$150,000~$199,999				
18）$200,000以上				

※選択肢19、20の選択者および無回答者は含まれない。

⑥持ち家の有無との関係

続いて、持ち家の有無との関係であるが、かつて拙稿（正紀）で、一般的にラテン系では持ち家の有無の方が年収よりも経済的安定度の指標にはふさわしいのではないかという推論を立てたように[10]、持ち家率の方が回答者の政治的姿勢

により大きな影響力を持つとも考えられる。これには、「持ち家」がアメリカン・ドリームの実現を表す伝統的指標の１つとして機能するから、と考えられるからである。表12は、第16問の回答番号の平均に基づいたデータである。1.00に近い方が、持ち家率が高いということになる。二重国籍者と永住権保持者を比較すると、持ち家率では後者の方が平均してやや高いということがわかる。同一の法的身分で見ると、両者とも「本国政治にのみ無関心」の者の方が、「両国政治に無関心ではない」者よりも持ち家率が平均して高くなっている。それだけ、米国への定着の意志が強いということであろうか。

表 12　持ち家の有無と政治的関心（Q16の回答に基づいて作成）

法的身分	両国の政治に無関心ではない	本国政治にのみ無関心	米国政治にのみ無関心	両国の政治に無関心
米国市民(二重国籍者)	1.74（ 53名）	1.25（ 4名）	——	2.00（ 1名）
永住権保持者	1.65（ 54名）	1.50（ 6名）	2.00（ 1名）	2.00（ 2名）
TPS保持者	1.83(108名)	2.00（ 6名）	1.57（ 7名）	1.86（ 7名）
在留資格なし	1.93（ 56名）	2.00（ 5名）	1.83（ 6名）	2.00（ 2名）

※無回答者のデータは含まれていない。

⑦本国への送金の有無との関係

(i)本国の家族・親族への送金

次に、本国への送金の有無について考えてみたい。第21問は経済的余裕があるかどうかというよりも、本国に残している家族・親族とのつながりが日常的にあるかどうか、つまり家族・親族レベルで本国とのつながりがあるかどうかを見るための質問である。そうしたつながりの有無が政治的関心に影響を与えているのか否かを示したのが表13である。回答番号の１.「はい」か2.「いいえ」かをグループごとに平均値を示している。つまり、数字が小さいほど「はい」の回答が多かったことを表している。

表 13　家族・親族への本国送金の有無と政治的関心（Q21-(a)の回答に基づいて作成）

法的身分	両国の政治に無関心ではない	本国政治にのみ無関心	米国政治にのみ無関心	両国の政治に無関心
米国市民（二重国籍者）	1.44（ 54名）	1.25（ 4名）	——	2.00（ 1名）
永住権保持者	1.24（ 55名）	1.87（ 6名）	1.00（ 1名）	1.00（ 2名）
TPS保持者	1.20（106名）	1.22（ 9名）	1.00（ 6名）	1.00（ 7名）
在留資格なし	1.16（ 57名）	1.33（ 6名）	1.00（ 7名）	1.00（ 2名）

※無回答者のデータは含まれていない。

ここで目を引くのが、永住権保持者においては「本国政治にのみ無関心」な者は「両国政治に無関心ではない」者よりも送金率が低いが、二重国籍者ではそれが逆になっている。これは、本国の家族・親族に送金はするけれども、本国政治には関心がないという者が多少いることを示している。つまり、家族・親族への送金行為が必ずしも本国政治への関心につながるわけではないという事例が少数ながらも確認される。

(ii)他を対象とした本国送金

この種の送金には本国地元の政治団体などへの寄付行為も含まれるので、政治的性格のかなり強い送金となる可能性が高い。表 14 は、第 22 問の a) の回答番号の平均をグループ別に示したものである。全体的に、家族・親族への送金ほどの率の高さはないが、二重国籍者の場合をみると、「本国政治にのみ無関心」の者 4 名のうち、いずれもこの種類の送金を行っていないことで、「本国政治への無関心さ」との相関関係の可能性が指摘されよう。永住権保持者でも同様である。

表 14　他のタイプの本国送金と政治的関心（Q22-(a) の回答に基づいて作成）

法的身分	両国の政治に無関心ではない	本国政治にのみ無関心	米国政治にのみ無関心	両国の政治に無関心
米国市民(二重国籍者)	1.53（ 49名）	2.00（ 4名）	——	2.00（ 1名）
永住権保持者	1.67（ 48名）	2.00（ 6名）	2.00（ 1名）	2.00（ 2名）
TPS保持者	1.81(106名)	1.86（ 7名）	1.86（ 6名）	2.00（ 7名）
在留資格なし	1.71（ 55名）	1.67（ 6名）	2.00（ 5名）	2.00（ 2名）

※無回答者のデータは含まれていない。

⑧エルサルバドルへの訪問の頻度と政治的関心との関係

表 15 は、第 23 問に対する回答番号の平均をグループごとに示したものである。エルサルバドルへの訪問頻度は、やはり本国とのつながりという点から、政治的関心に影響を与えうるか否かがここでのポイントである。数字が大きいほど、頻度が大きいといえる。

表 15　エルサルバドルへの訪問の頻度と政治的関心との関係
（Q23 の回答に基づいて作成）

法的身分	両国の政治に無関心ではない	本国政治にのみ無関心	米国政治にのみ無関心	両国の政治に無関心
米国市民(二重国籍者)	3.73（ 52名）	3.50（ 4名）	——	1.00（ 1名）
永住権保持者	3.17（ 54名）	2.33（ 6名）	1.00（ 1名）	4.00（ 3名）
TPS保持者	1.36(105名)	1.00（ 7名）	1.00（ 7名）	1.00（ 7名）
在留資格なし	1.22（ 54名）	1.00（ 6名）	1.00（ 7名）	1.00（ 2名）

※無回答者のデータは含まれていない。

ここでもやはり、二重国籍者と永住権保持者との間が特徴の大きな違いが指摘できる。永住権保持者では「本国政治にのみ無関心」の者の方が平均的に訪問頻度が低いのに対して、二重国籍者では訪問頻度が平均的に高いにもかかわらず、「本国政治にのみ無関心」という事例が、少数（4 名）ではあるが見受けられる。ここから、確実ではないものの、エルサルバドルへの訪問頻度と本国政治への関心度とはあまり関係がないと仮定できそうである。

さらに、二重国籍者に限って内訳を示した表15－1をみると、「本国政治にのみ無関心」の者の頻度には散らばりがみられるが、この訪問頻度数と政治的関心との間に何らかの関係性があるとは言い難い。

表15－1　米国市民（二重国籍者）のエルサルバドルへの訪問頻度
（Q23の回答に基づいて作成）

訪問頻度	両国政治に無関心ではない	本国政治に無関心	米国政治に無関心	両国政治に無関心
1. 一度もない	6名	1名		1名
2. ほとんどない	0名			
3. 5年に1回程度	18名	1名		
4. 2~3年に1回	16名			
5. 年に1回	6名	2名		
6. 年に1回	6名			
7. 年に3回以上	0名			

※無回答のデータは含まれない。

(3) 二重国籍者のみが持ちうる特徴からの分析

これ以降は、主に二重国籍者に限定される特徴について見てみよう。

①米国籍を取得してから調査時までの年数

表16をみると、米国籍取得後、比較的早い時期に政治的無関心者が多少生じてくるように考えられる。一方で、米国国籍取得後30年以上を経ても、両国政治への関心が無くならない例が少数見られる。

表 16　米国籍取得後の現在までの年数と政治的関心（二重国籍者）
（Q35-(a) の回答に基づいて作成）

米国籍取得後の年数	両国政治に無関心ではない	本国政治に無関心	米国政治に無関心	両国政治に無関心
1 ～ 5年	4名	1名		
6 ～ 10年	6名	1名		1名
11 ～ 15年	11名			
16 ～ 20年	8名			
21 ～ 25年	5名			
26 ～ 30年				
31 ～ 35年	2名			
不明	17名	1名		

※無回答者のデータは含まれない。

②年齢

表 17 をみると、中高年層に「本国政治にのみ無関心」な事例が多少見られると言えよう。

表 17　年齢と政治的関心（二重国籍者）（Q3 の回答に基づいて作成）

年齢	両国政治に無関心ではない	本国政治に無関心	米国政治に無関心	両国政治に無関心
18 ～ 20歳	2名			
21 ～ 25歳	3名			1名
26 ～ 30歳	2名			
31 ～ 35歳	2名			
36 ～ 40歳	2名	1名		
41 ～ 45歳	8名	1名		
46 ～ 50歳	10名			
51 ～ 55歳	7名			
56 ～ 60歳	7名	1名		
61 ～ 65歳	8名			
66 ～ 70歳	1名			
無回答	5名			

※無回答者のデータは含まれない。

③市民権取得理由

表18をみると、「両国政治に無関心でない」者の場合、有権者としての米国政治への参加だけでなく、参政権を通じて在米エルサルバドル系全体の法的地位向上を目指すため、を目的として指摘する回答が目立つ。「エルサルバドル国籍を捨てる気になったから」の回答数がほとんどないのは、やはり二重国籍容認の規則を生かした形の米国籍取得がかれらの間に定着しているからであると見ることができる。また、米国での永住の意志を理由とするのは、他の政治姿勢の者にも見られる。さらに、エルサルバドルとの行き来の簡素化の指摘は、永住権保持者の身分の場合には国外滞在に関して一定の制限があることと関係する。

表 18　市民権取得理由（二重国籍者）（Q35-(b) の回答に基づいて作成）

	両国政治に無関心ではない	本国政治に無関心	米国政治に無関心	両国政治に無関心
1. 米国政治に有権者として参加するため	29名			1名
2. 米国政治への参政権を行使して、在米エルサルバドル系の非市民や在留資格のない移民の権利獲得や地位向上を求めて闘うため	16名			
3. 本国にいる家族・親族を呼び寄せるため／呼び寄せられるから	8名			
4. 米国に永住する気になったから	22名	2名		1名
5. エルサルバドル国籍を捨てる気になったから	1名			
6. 十分な報酬が得られる安定した職に就けるから	7名			
7. エルサルバドルと米国との間の行き来がより頻繁に容易くできるようになるから	14名			
8. 1994年の「住民提案第187号」に代表される「反移民」的な風潮が米国内で強まりつつあったので	7名			
9. 片親または両親がアメリカ合衆国の国籍を取得したので	4名	1名		
10. その他	1名（婚姻） 5名（出生）			
無回答	4名			

※複数回答を含む。

④渡米から米国籍取得までに要した年数

表19をみると、渡米して比較的早い時期に米国籍を取得することと、政治的無関心であることとの相関関係が多少あると言えよう。本国に対する執着が少ない分、それだけ容易に米国籍取得へと向かってしまうということの表れなのであろうか。しかし、同様の年数で市民権取得を達成した人にも、両国政治に対する関心を保ち続けている者もおり、むしろそちらの事例の方が多いので、「少数の例外」として考えるのが妥当かもしれない。

表19　渡米から市民権獲得までに要した期間（二重国籍者）
（Q 7およびQ35-(a)の回答に基づいて作成）

期間	両国政治に無関心ではない	本国政治に無関心	米国政治に無関心	両国政治に無関心
0～ 5年	9名	1名		
6～10年	6名	1名		1名
11～15年	11名			
16～20年	8名			
21～25年	5名			
26～30年				
31～35年	2名			
無回答	17名	1名		

⑤米国の選挙政治における投票率

では、次に、二重国籍者は米国籍取得後、米国選挙政治においてどれくらいの頻度で投票行動を行っているのであろうか。表20は、各人の米国籍取得年から投票可能な過去の選挙数を割り出して分母とし、第36問の回答に基づき、投票に行った回数を分子として、その人の投票率を計算しておおまかな投票行動頻度を表にしたものである。

投票頻度に対応して回答されうる選択肢の番号の平均値を算出してみると、圧倒的に「両国政治に無関心ではない」者において、投票頻度が高く、しかも選挙の半数以上で投票していることが分かる。逆に、「本国政治に無関心」の者は、米国選挙政治に対する投票行動もあまり頻繁ではないと言えよう。

表 20　米国での投票行動の頻度（二重国籍者）
（Q35-(a) および Q36 の回答に基づいて作成）

	両国政治に無関心ではない	本国政治に無関心	米国政治に無関心	両国政治に無関心
1）すべての選挙	14名			1名
2）ほとんどすべて	7名			
3）半々	3名			
4）あまりない	5名	1名		
5）ほとんどない	7名	1名		
6）全然ない	3名	1名		
選択肢の平均値	2.82	4.50		1.00
有権者登録なし	3名			
判定不能	11名	1名		

さらに、2012 年 11 月の大統領選挙で投票する予定がどうかも尋ねた結果が、表 21 である。

表 21　2012 年大統領選挙での投票の意志（二重国籍者のみ）
（Q37 の回答に基づいて作成）

投票の意志	両国政治に無関心ではない（57名）	本国政治に無関心（4名）	米国政治に無関心	両国政治に無関心（1名）
1. はい、行きます	47名	3 名		
2. おそらく行きます	2 名			1 名
3. まだわかりません	2 名			
4. おそらく行きません	0 名			
5. いいえ、行きません	2 名	1 名		
無回答	4 名			

全体として、行く予定の人が 93％ほどいて、かれらの関心の高さを示している。

⑥将来のエルサルバドルへの帰還の希望の有無

最後に、将来、エルサルバドルへの帰還を希望しているか否かについて見てみよう。

表22は、４つの法的身分別にその希望の内訳を示したものである。二重国籍者の約半数は帰還を希望してないことがわかるが、一方で半数近くが状況が変われば帰還することを考えていることになる。おそらく、この点から二重国籍者は米国に対する忠誠心に欠けると判断される可能性があるのかもしれない。もっとも、いずこにいても両国政治への政治的関心は変わらないことが証明されれば、こうした判断の仕方は根拠のないものということになろう。

表22　エルサルバドルへの将来の帰還について（Q41の回答に基づいて作成）

	米国市民（二重国籍者）	永住権保持者	TPS保持者	在留資格なし
全体数	62名	65名	122名	74名
1. はい、とにかくできる限り早く帰りたい	5名	10名	8名	8名
2. はい、思っているよりも米国での生活がうまくいかないことがわかったら	2名	3名	10名	6名
3. はい、米国での移民に対する風当たりが強くなったら			1名	3名
4. はい、本国の治安が改善したら	6名	11名	17名	15名
5. はい、本国の経済が改善したら	8名	8名	14名	9名
6. はい、本国の政情が安定したら	6名	7名	7名	3名
7. はい、本国で裕福に暮らせるだけのお金を儲けたら	2名	4名	10名	10名
8. はい、一緒に暮らしている子供が一人立ちしたら	3名	3名	14名	5名
9. はい、他の動機で	10名	10名	6名	3名
10. いいえ、そのつもりはありません	29名	26名	56名	22名
その他の回答	1名			
無回答	5名	4名	11名	7名

※複数回答を含む。

さらに、二重国籍者に限って、政治的関心別の回答分布を示したのが表22－1である。ここから、本国政治に無関心、あるいは両国政治に無関心な者は、将来的にも米国にとどまることを希望していることが分かる。一方で、両国政治に無関心ではない者でも「できる限り早く帰りたい」と考えている人がいることも分かる。

表22－1　エルサルバドルへの将来の帰還について（二重国籍者のグループ別回答）
（Q41の回答に基づいて作成）

	両国政治に無関心ではない	本国政治に無関心	米国政治に無関心	両国政治に無関心
1. はい、とにかくできる限り早く帰りたい	5名			
2. はい、思っているよりも米国での生活がうまくいかないことがわかったら	2名			
3. はい、米国での移民に対する風当たりが強くなったら				
4. はい、本国の治安が改善したら	6名			
5. はい、本国の経済が改善したら	8名			
6. はい、本国の政情が安定したら	6名			
7. はい、本国で裕福に暮らせるだけのお金を儲けたら	2名			
8. はい、一緒に暮らしている子供が一人立ちしたら	3名			
9. はい、他の動機で	10名			
10. いいえ、そのつもりはありません	26名	2名		1名
その他の回答		1名		
無回答	5名			

※複数回答を含む。

5．結果・考察

今回の調査では、「2010年予備調査」の時よりも回収数が多く、しかも二重国籍者の回答者数が格段に増えている点で、筆者たちの研究テーマに沿った分析がより可能となった。しかしながら、本稿の随所で指摘しているように、まだまだ本格的な統計分析を実施するには回収数が不足していることは否めない。こうした問題がありながらも、これまでの調査結果の分析から、以下のことが仮説として得られた。

・両国政治に無関心ではない者は、どの法的身分でも大半を占めるが、米国政治に有権者として参加できる身分である二重国籍者においてその割合が最も高い。米国籍を取得しても本国政治への関心はなくなることはないといえるようだ。

・「両国政治に関心のある」回答者の大半は、投票行動という形で本国での選挙政治への参加経験がある。しかも、投票の頻度をみると、永住権保持者よりも二重国籍者の方がやや高くなっている。それに対し、本国において、選挙運動を除いた「非選挙政治」への参加の度合は各法的身分を通じて、10～20％台くらいにとどまっている。

・米国での抗議行動参加度の詳細データと不参加の場合の理由についてみると、二重国籍者では永住権保持者よりも米国における抗議行動への参加経験者率がやや高く、しかも「何度も」参加したことのある者が1割強を占める。抗議運動への不参加の理由は、時間的余裕のなさよりも「抗議が好きではない」、「混乱や暴力沙汰を恐れる」、「目立ちたくない」という回答が二重国籍者では目立っていた。

・米国でのボランティア・コミュニティ運動への不参加の理由については、興味ややる気のなさの指摘が多い。これに次いで多かったのが、時間的余裕のなさ、自分の英語能力への不安で、これらについては永住権保持者の方がやや回答率が高かったことは、かれらの米国での生活状況を勘案すれば、うなずけよう。

・当然ながら、二重国籍者の方が永住権保持者よりも滞米年数が平均して7年ほど長い。そのなかで、滞在年数が20年台後半から30年台前半にかけて、

本国政治に無関心な者が集中している。ここから何が言えるかは、今後の課題である。

・この調査で唯一、米国社会への文化的「同化」の指標となると考えられる英語自己判定能力では、二重国籍者の方が永住権保持者よりも高いことが分かった。これには、前項の滞米年数が大きく関係していると考えられる。二重国籍者だけで見ると、「本国政治にのみ無関心」の者は、「両国政治に対して無関心ではない」者よりも能力が上回っている。

・全体的に、二重国籍者の方が永住権保持者よりも平均して学歴が高い。また、二重国籍者の学歴に関する内訳をみると、「本国政治にのみ無関心」の者は学歴では中レベルを占める。

・年間世帯所得では、全体的として、二重国籍者の方が永住権保持者よりも平均的に年収が高く、また二重国籍者では、「本国政治にのみ無関心」の者の方が「両国の政治に無関心でない」者よりも平均して年収が断然高いものの、内訳でみると、かなりのばらつきがあって、特徴的なことは見いだせない。

・持ち家率では、二重国籍者と永住権保持者を比較すると、後者の方が平均してやや高い。これは何を意味するのか。今後の課題となろう。同一の法的身分で見ると、両者とも「本国政治にのみ無関心」の者の方が、「両国政治に無関心ではない」者よりも持ち家率が平均して高い。

・本国にいる家族・親族への送金行為では、それを行っているからといって必ずしも本国政治への関心があるわけではないという事例が少数ながら確認された。

・家族・親族以外への送金については、家族・親族への送金ほどの率の高さはないが、二重国籍者の場合をみると、「本国政治にのみ無関心」の者はすべて、この種の送金を行ってないことで、「本国政治への無関心さ」との相関関係が多少、指摘できるかもしれない。

・エルサルバドルへの訪問頻度と本国政治への関心度とはほとんど無関係である、といえるかもしれない。また、今後の調査で、訪問の目的について詳しく尋ねることにより、その内実がはっきりするかもしれない。

・「本国政治へ無関心」な者は、米国籍取得からの年数が10年以下と短く、中高年層に集中している。

・「両国政治に無関心でない」者の場合、有権者としての米国政治への参加だけでなく、参政権を通じて在米エルサルバドル系全体の法的地位向上を目指すため、という目的を米国籍取得の理由として挙げている者が多かった。
・米国選挙政治行動においては、圧倒的に「両国政治に無関心ではない」者の方において、投票頻度が高く、しかもこれまで投票可能な選挙の半数以上に投票している者が多い。逆に、「本国政治に無関心」の者は、米国選挙政治に対する投票行動もあまり頻繁ではない。しかしながら、2012年11月の大統領選挙には関心が全体を通じて高く、「本国政治に無関心」の者でも確実に投票に行くと答えていた。
・二重国籍者の約半数は将来エルサルバドルに帰還することを希望しないが、一方で半数近くが時節に応じて帰還することを考えている。また、本国政治に無関心、あるいは両国政治に無関心な者は、将来的にも米国にとどまることを希望している。

6．結論

本稿では、エルサルバドル系二重国籍者の政治意識・政治行動を決定する様々な要因について、米国でのかれらの経験と同時に、移民する前の本国での経験をも射程にいれて、検討を加えた。

法的身分の別なく、回答者のほとんどが米国政治と本国政治に無関心ではなく、特に、二重国籍者では米国籍を未だ取得していない永住権保持者よりも「無関心でない」者の比率が高い。米国籍を取って米国選挙政治に参加できる資格を得ることで米国政治にさらに関心を持つようになっても、本国政治への関心は消滅せず、保持されることになるのであろうか。

また、「両国政治に関心のある」回答者の大半においては、永住権保持者よりも二重国籍者の方が本国選挙政治での投票行動の経験頻度が高かったが、「非選挙政治」への参与度は全法的身分を通じてそれほど高くはなかった。それには、本国社会の側の制約や政治風土などが関わっているのかもしれない。というのは、「非選挙政治」活動自体が武力闘争を含んでいた時代が過去のものとなり、自由な選挙政治への参加が保障されるようになってまだ20年ほどしか経っていない本国社会での経験が、移民として入国したエルサルバドル系において、今度は米

国での政治意識・政治行動を作り上げてきた / いるのかもしれないからである。それが、二重国籍者の抗議運動やボランティア・コミュニティ活動への不参加の理由にも反映されているのではないかと考えられる。

二重国籍者の滞米年数は 21 ～ 35 年の間に集中しているが、同様にその間に「本国政治に無関心」の者も少数いる。ここから、ごく少数の例外を除けば、米国での滞在・居住が長くなっても両国政治への関心はなくならないと言っていいかもしれないが、ここでいう「ごく少数の例外」が本当に例外なのかどうか、これを確かめるにはさらに多くの回答者のデータが必要となろう。ただし、一般社会においても必ず自国の政治に無関心な人は一定程度いるわけなので、むしろ自然な存在とも考えられよう。その「自然な存在」のサンプルがたった 4 人しかいないなかで、何か傾向を導き出そうとしても無理があろうから、この段階（限定されたサンプル数）で特別な意味があるのかどうか分析することは不可能に近いともいえよう。とりあえず、大規模な現地調査が実現していない現段階では、少数ではあるものの複数存在する「本国政治にのみ無関心」の者たちの特徴を、以下であぶりだしてみるにとどめたい。

それでは、「本国政治にのみ無関心」の者の特徴を挙げながら、どういう性質の二重国籍者が本国政治に関心を持たないのかを検討してみよう。まず、滞米年数が 26 ～ 35 年という比較的長い年数のグループに集中していることである。次に、英語自己判定能力は良い方である。学歴は中程度で、年収にはばらつきがあるため、一概に特徴は指摘できない。ただ、持ち家率については、4 人中 3 人が持ち家である。本国送金については、4 人中 3 人が家族･親族に送金しているが、その他のタイプの送金は 4 人ともしておらず、このことが本国政治への態度と関係してくると考えられる。エルサルバドルへの訪問頻度は「全然ない」から「年に一回」とばらつきがあり、政治的態度との関係性は見出し難い。むしろ、何の目的で訪問するのかを問うことで何らかの関係性が見えてくるかもしれない。今後の課題となろう。

さらに、「本国政治に無関心」な者は、中高年層に集中するが、せいぜい 10 年前という比較的最近、米国籍を取得した者が多い。本国政治に無関心である一方で、投票行動を通じた米国選挙政治への参与にもあまり熱心ではない。将来的には、米国に永住し、エルサルバドルへの帰還は全く考えていない。

以上が、「本国政治に無関心」な者の特徴として強いて挙げられることであるが、逆にこの特徴を持っているからといって必ずしも「本国政治に無関心」であるとは限らない。なぜなら、同じ性格を持っていても「両国政治に無関心でない」者がさらに多くいるからである。

とりあえず、「本国政治に無関心」な者の傾向としてまとめると、滞米年数が20年台後半から30年台前半という相対的に長期にわたるものの、米国籍は最近取得したばかりである。

英語能力は良い方であり、米国社会への文化的「同化」は進んでいるといえよう。学歴は中程度で、年間世帯所得はさまざまであるが、経済的安定やアメリカン・ドリームの達成の指標となる持ち家率は相対的に高い。本国送金では、家族・親族向けが中心で、政治的色合いが出てくる「他の送金」はしていない。

ただ、米国選挙政治への参加度は相対的に低いことに加え、表の形で示してはいないが、「本国政治に無関心」な者4名のうち、米国での抗議行動参加経験者は皆無であり、ボランティア・コミュニティ活動参加者は1名のみとなっている。

以上のような「本国政治に無関心」な者の傾向がかれらの政治的姿勢や政治活動に影響を与えているのか、その逆なのか、あるいは相互作用的であるのか、については今のところ断定はできないが、少なくとも本調査を通じて、ほぼ確実に言えることは次のことである。エルサルバドル系の大半は本国政治と米国政治の双方に対して何らかの政治的関心を持っており、しかもその割合は二重国籍者において最大である。それは、米国政治に対しては直接参加できる法的身分である一方で、本国政治に対しては他の法的身分の者たちと同様に参加が制度上保障されているわけではないが、本国政治への働きかけのための経済的余裕・時間的余裕、そしてエルサルバドルへの移動のための制度的融通性・自由さ(11) などがあるためである、と仮定できよう。今後は、こうしたさらに突っ込んだ部分に着目しながら現地調査を計画・立案・実施する一方で、これまで研究史として蓄積された定質的分析が中心となる実証研究の成果をも批判的に取り入れながら、共同研究を進めていきたい。

註

(1) この点について詳しくは、中川正紀「米国におけるラテン系二重国籍者の政治意識・政治行動：コロンビア系とエルサルバドル系の比較の試み」『フェリス女学院大学文学部紀要』第47号、2012年3月、を参照。

(2) Jeffrey K. Staton, Robert A. Jackson, and Damarys Canache, "Dual Nationality among Latinos: What are the Implications for Political-Connectedness?" *Journal of Politics*, Vol. 69, Issue 2, May 2007, pp. 470-482; ハンティントンは、その著書の次の箇所で「二重国籍者」に関する論考をおこなっている：Samuel P. Huntington, *Who are We?: The Challenges to America's National Identity*, Simon & Schuster Paperbacks, 2004, pp.204-213（サミュエル・P・ハンティントン、鈴木主税訳『分断されるアメリカ：ナショナル・アイデンティティの危機』集英社、2004年、pp.287-299）.

(3) Staton, Jackson, and Canache, p.472.

(4) Staton, Jackson, and Canache, p.470.

(5) 「2010年予備調査」はもちろんのこと、本稿で用いるデータが得られた「2012年予備調査」の準備段階において、質問項目や選択肢を含むアンケートの立案・作成は完全に中川正紀と中川智彦との共同作業による。また、現地でのアンケートの実現において、スペイン語が堪能な中川智彦による現地協力者との調整や実働要員としての参加が不可欠であったことを合わせて強調しておきたい。

「2012年予備調査」の実施にあたり、様々な現地協力者に関わっていただいた。これも、中川智彦の長期にわたる努力の賜物である。「2010年予備調査」の準備段階からお世話になった方々として、現地在住のエルサルバドル系およびニカラグア系のブリスエラ夫妻、エルサルバドル系NPO組織エル・レスカテの常任理事、サルバドール・サナブリア氏と役員の一人、フランシスコ・リベーラ氏、エルサルバドル系週刊新聞『ディア・ア・ディア』紙社主のオスカル・ドミンゲス氏、在ロサンゼルス・エルサルバドル領事館勤務の副領事、マルガリータ・パルマ氏ほかスタッフの方々が挙げられる。また、「2012年予備調査」で初めてお世話になった方々として、フィエスタ・アゴスティーナ（「八月祭」）実行委員会の1つ、UNICOMDESのイスマエル・キハーダ氏、そして領事のアイーダ・グリセルダ・アラス氏が挙げられる。また、エルサルバドル本国住民支援のNGOのメンバー数名の方々から調査の場で数々の協力をいただいた。この場を借りて、感謝の意を表したい。

なお、本稿では、回収したアンケート・データのうち、中川正紀が中心に担当する二重国籍者の政治意識・政治行動に関係した部分を主に用いて集計・分析した。

(6) たとえば、Susan Bibler Coutin, *Legalizing Moves: Salvadoran Immigrants' Struggle for U.S. Residency*, University of Michigan Press, 2000; Beth Baker-Cristales, *Salvadoran Migration to Southern California*, University Press of Florida, 2004; S. B. Coutin, *Nations of Emigrants: Shifting Boundaries of Citizenship in El Salvador and the United States*, Cornell University Press, 2007; Margarita S. Studemeister, "The Political Incorporation through Citizenship of Salvadoran Forced Migrants in the Washington Metropolitan Area," Ph.D Dissertation, American University, Washington, D.C., 2011, 等があるが、いずれも研究対象者、調査地域、分析方法、などの点で我々の関心とずれがある。

(7) 中川正紀・中川智彦「ロサンゼルス地域におけるエルサルバドル系住民の政治意識と政治行動— 2010年9月の現地予備アンケート調査の結果に基づいて—」『フェリス女学院大学文学部紀要』第46号、2011年3月、pp.183-204。

(8) ここでいう「非選挙政治」の指す範囲については、中川正紀「南カリフォルニア地域におけるラティーノ住民の階層分化と移民観：実地調査のための歴史的・社会的背景の考察」『フェリス女学院大学文学部紀要』第42号、2007年11月、pp.81-87、の議論を参照。

(9) 今回の調査の回答では、米国籍保持者は全員、エルサルバドル国籍も保持する二重国

籍者であった。TPS（Temporary Protected Status：短期被保護資格）については、中川正紀・中川智彦（2011年）、を参照。

(10) 中川正紀「『ロサンジェルス郡南東部地域』のラティーノ住民の階層差と政治意識：持家の有無が与える影響に関する一考察」『フェリス女学院大学文学部紀要』第44号，2009年3月、pp.99-121、を参照。

(11) 二重国籍でなくても永住権さえ得れば本国との往来自体は基本的にある程度、自由となることから、理論上、かれらはエルサルバドル本国で有権者登録をすれば、また2001年の統一身分証明書（DUI）導入後はそれを取得すれば、いつでも本国の選挙で投票でき、実際に、投票のために帰国する人々がいることは地元新聞の報道からも明らかであるが、あくまでも法制度上の間隙を利用した一部の人々の慣行であり、制度上保障されているわけではない。

なお、DUIについては、中川正紀・中川智彦（2011年）、を参照。

（参考資料）アンケート質問用紙全6ページ分（日本語訳）

※ スペイン語版、英語版は抜粋のみ

2012年8月版アンケート調査用紙（日本語）　　2012年8月、於ロサンゼルス

このアンケートはエルサルバドル系の18歳以上の住民の方を対象としたものです。
各質問に対して、空所に活字体で回答を記入するか、あるいは該当する選択肢を選んで下さい。

（1） a)あなたが住んでいる市または市制のない地域の名前をお書きください。
（　　）
b)ロサンゼルス市内在住の場合は、お住まいのコミュニティ名も記入して下さい。
郵便番号でも構いません　（　　）

（2） あなたの性別は何ですか。　1 □ 女性　2 □ 男性

（3） 年齢はおいくつですか。　（　　）歳

（4） あなたは、自分自身がどの民族あるいは集団に属していると思いますか。二つ以上の選択肢を選んで頂いて構いません。
1 □ 白人　2 □ 黒人
3 □ ムラート　4 □ アメリカ先住民(ピピルやその他すべての)
5 □ メスティソ　6 □ エルサルバドル人
7 □ ラティーノ　8 □ イスパーノ
9 □ ヒスパニック　10 □ エルサルバドル系アメリカ人
11 □ アフリカ系アメリカ人　12 □ 他の民族あるいは集団：（　　）

（5） 次のうち、あなたはどれにあたりますか。
1 □ エルサルバドル生まれで、米国に移民してきた
2 □ 米国生まれの一世
3 □ 米国生まれの二世
4 □ 米国生まれの三世
5 □ その他：（　　）　→ケースに応じて下記の二つのグループのどちらかに合わせて進んで下さい。
「**エルサルバドル生まれで、、、**」と答えた方は、引き続き **(6)番**の質問にお答

え下さい。
「***米国生まれの、、、***」と答えた方は、***(9)番***の質問にお進み下さい。

（6） 出生地はどちらですか。
1 □ エルサルバドル
--- あなたが生まれた県名を選んでください。
1 □ サンタアナ県　8 □ チャラテナンゴ県
2 □ ソンソナテ県　9 □ クスカトラン県
3 □ アウアチャパン県　10 □ サンビセンテ県
4 □ サンサルバドル県　11 □ サンミゲル県
5 □ ラリベルタッド県　12 □ ウスルタン県
6 □ ラパス県　13 □ ラウニオン県
7 □ カバーニャス県　14 □ モラサン県
2 □ 他の国　→あなたが生まれた国の名前をご記入ください。（　　）

（7） あなたが米国に初めて移り住んで来たのは、何年のことですか。　（　　）

（8） あなたが米国に移り住むことにした最大の動機は何ですか。
1 □ 政治的庇護を求めて
2 □ 内戦から逃れるために
3 □ 1998年のハリケーンミッチーや2001年の大地震などの自然災害の被害を受けたため
4 □ 内戦後に治安のより良い社会で暮らすために
5 □ 家族らと一緒に暮らすために
6 □ エルサルバドルに残してきた家族らを助けるために
7 □ 経済的により豊かな暮らしを求めて
8 □ 米国内での商売や仕事で
9 □ その他：（　　）

（9） あなたが持っている国籍についてお尋ねします。 あなたは次のうちどれに当たりますか。
1 □ エルサルバドル国籍のみ
2 □ エルサルバドル国籍とアメリカ合衆国籍**の両方**
3 □ アメリカ合衆国籍のみ
4 □ その他：（　　）

(10) a)あなたは現在、米国での居住又は就労のための公的許可を何かお持ちですか。
1 □ 私は米国市民です　2 □ はい *　3 □ いいえ、持っていません
*「**はい**」**と答えた方だけ、次の質問にも**お答え下さい。
b)公的許可とは何か、お示しください。
1 □ 短期被保護資格　2 □ 永住権　3 □ その他：（　　）

(11) あなたの学歴あるいは取得した学位についてお答え下さい。
1 □ 基礎教育またはそれ以下（高校での中等教育は受けていない：全く学校に行ったことがない人から9年次まで勉強した人まで）
2 □ 高校中退（高校での中等教育は受けたが、高校卒業資格は取得していない）
3 □ 高校卒業またはそれと同等の資格（普通科卒資格・職業技術科卒資格・GEDなど）
4 □ 準学士あるいは大学・短大中退
5 □ 4年生大学卒業
6 □ 大学院進学以上

7 □ その他：（　　）

(12) ここアメリカ合衆国であなたが一緒にお住まいの家族の人数は、何人ですか。
（　　）+1

(13) あなたが一緒に暮らしている家族を支えるために働いているのは何人ですか。
（　　）

(14) あなたの母語について、お答え下さい
a) ご家庭では主に何語をお話しですか。
1 □ スペイン語　　2 □ 英語
3 □ その他の言語（　　）

b) スペイン語はどれくらい話せますか。
1 □ とても上手に　　2 □ 上手に
3 □ あまり上手でない　　4 □ 全く上手でない

c) 英語はどれくらい話せますか。
1 □ とても上手に　　2 □ 上手に
3 □ あまり上手でない　　4 □ 全く上手でない

(15) もし差しつかえなければ、あなたの年間世帯所得をお書き下さい。あるいは以下のなかから当てはまるものにチェックをして下さい。　$（　　）<米ドル>

1 □ $10,000 未満
2 □ $10,000 から $14,999
3 □ $15,000 から $19,999
4 □ $20,000 から $24,999
5 □ $25,000 から $29,999
6 □ $30,000 から $34,999
7 □ $35,000 から $39,999
8 □ $40,000 から $44,999
9 □ $45,000 から $49,999
10 □ $50,000 から $54,999
11 □ $55,000 から $59,999
12 □ $60,000 から $64,999
13 □ $65,000 から $69,999
14 □ $70,000 から $74,999
15 □ $75,000 から $99,999
16 □ $100,000 から $149,999
17 □ $150,000 から $199,999
18 □ $200,000 以上
19 □ 答えたくありません
20 □ 正確にわかりません

(16) ご自宅は持ち家ですか、借家ですか。
1 □ 持ち家　　2 □ 借家
3 □ その他：（　　）

（17）番から（22）番では、あなたのご職業についてお答え下さい。

(17) あなたは次のうちどれですか。
1 □ フルタイムで年間を通じて雇用されている
2 □ フルタイムで、一年のうちある時期だけ雇用されている
3 □ パートタイムで雇用されている
4 □ 失業中　　5 □ 年金生活・退職者
6 □ 主婦　　7 □ いずれにも該当しない回答：（　　）

(18) a) どのような種類の仕事をなさっていますか。（例えば、正看護師、人事管理部長、調達部の監督、秘書、会計士など）

b)あなたの最も重要な役割あるいは職務は何ですか。（例えば、患者の世話、雇用方針の指揮、調達部員の監督、タイプや文書管理、財務記録の調整など）

＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

（19）から（20）は、エルサルバドル生まれ・育ちの人で、のちに米国に移民してきた人達のためだけの質問です。もしお差支えなければ、これらの質問にご回答ください。その他の人々は、（21）にお進みください。

(19) エルサルバドルを出る時点で、あなたは次のうちどれでしたか。

1 □ フルタイムで年間を通じて雇用されていた
2 □ フルタイムで、一年のうちある時期だけ雇用されていた
3 □ パートタイムで雇用されていた
4 □ 失業中　　5 □ 年金生活・退職者
6 □ 主婦　　7 □ 未成年
8 □ いずれにも該当しない回答：（　　）

(20) a)エルサルバドルでは、どのような種類の仕事をなさっていましたか。（例えば、正看護師、人事管理部長、調達部の監督、秘書、会計士など）

＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

b)あなたの最も重要な役割あるいは職務は何でしたか。（例えば、患者の世話、雇用方針の指揮、調達部員の監督、タイプや文書管理、財務記録の調整など）

＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

(21) エルサルバドルに住んでいる家族・親類に対する送金についてお答え下さい。
ご自分で送金をされている方だけがお答え下さい。

a)現在、あなたはエルサルバドルに住んでいるご家族・親類に送金されていますか。

1 □ はい　　→*c）と d）*
2 □ いいえ　　→*b）のあと（22）へ*

b)送金されないのは、なぜですか。　　*このあと（22）へ*

1 □ したくない　　2 □ 助けるべき家族・親戚がいない
3 □ お金が足りない　　4 □ 家族に扶養されている身である
5 □ その他の理由：（　　）

c)どのくらいの頻度で送金されていますか。

1 □ １か月に２回以上　　2 □ 毎月（１回）　　3 □ 隔月
4 □ 年に４回　　5 □ 年に３回　　6 □ 年に２回
7 □ 年に１回　　8 □ 不定期に：（　　）

d)家族・親類に対する送金としては、１年にいくらほど送金されていますか。
$（　　）＜米ドル＞

(22) a) あなたは、家族・親類に対する送金とは別に、エルサルバドルの団体や集団に対する投資や寄付を含めて、他に何らかの送金や贈与をしていらっしゃいますか。

1 □ はい　　→ *b）と c）*
2 □ いいえ　　→ *（23）*

b)あなたはどのような送金をされてますか。　二つ以上の選択肢を選んで頂いて構い

ません。
1 □ 投　資：(具体的な投資先は　　)
2 □ 寄　付：(具体的な相手は　　)
3 □ 贈り物：(具体的な相手は　　)
4 □ 党　費
5 □ その他：(　　)

c) この種の送金・贈与としては合計で、1年にいくらほど送金されていますか。
$ (　　) ＜米ドル＞

(23) あなたは、どのくらいの頻度で、エルサルバドルに帰ったり、行ったりしますか。
1 □ 一度も帰ったり、行ったりしたことがない
2 □ ほとんど帰ったり、行ったりしたことがない
3 □ およそ5年に1回　　4 □ 2～3年に1回　　5 □ 年に1回
6 □ 年に2回　　7 □ 年に3回以上(具体的には：年に　回くらい)

***引き続き、エルサルバドル国籍**をお持ち**の方に、エルサルバドル本国の政治**に対するあなたの立場や態度**について**、お答え頂きたいと思います。
エルサルバドル国籍をお持ちでない方は、(32) または (33) 番の質問にお進みください。

(24) あなたは、DUI (統一身分証明書) をお持ちですか。
1 □ はい　　→ ***(26) へ***
2 □ いいえ　　→ ***(25) のあと、(27) へ***

(25) DUI をお持ちでない理由は何ですか。　　***このあと、(27) へ***
1 □ 必要だと思わない　　2 □ 必要書類がなくて取得できない
3 □ 本国に関わる行為に必要だとは知らなかった
4 □ その他の理由：(　　)

(26) あなたはどこで DUI を取得または更新されましたか。その場所の名前、県名あるいは国名もお書き下さい。
1 □ アメリカ合衆国で：(　　)
2 □ エルサルバドルで：(県名を書いて下さい：　　)
3 □ 他の場所で：(　　)

(27) あなたは、エルサルバドル国外に居住する国民が、次のどの選挙における投票の権利と機会を持つ必要があると思いますか？複数回答可能です。
□ エルサルバドル共和国大統領・副大統領選出選挙
□ 中米議会議員の選出選挙
□ 国会議員選出選挙
□ 市会構成員の選出選挙

(28) あなたは、エルサルバドル国外に居住する国民として、第15県という形で在外エルサルバドル人共同体を代表する独自の国会議員を持つべきであると思いますか。
1 □ はい　　2 □ いいえ

(29) ***(27) から (28) までの質問のテーマに関することで何かご意見等ございましたら、こちらに何なりとお書き下さい。***

＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

(30)　投票方法としてはどのような形がよろしいですか。
　1 □ 郵送　　2 □ 自分が住んでいる場所の近くの領事館での投票
　3 □ その他の方法：(　　)

(31)　あなたはどの政党を支持していますか。
　1 □ 国民共和同盟　　2 □ ファラブンド・マルティ国民解放戦線
　3 □ 国民統一党　　4 □ キリスト教民主党
　5 □ 国民融和党　　6 □ 民主連合　　7 □ 国民党
　8 □ その他の政党（政党名をお書き下さい:　　)
　9 □ 無所属　　10 □ 答えたくありません　　11 □ 興味がありません
　12 □ いずれにも該当しない回答：(　　)

(32)　この質問は、***エルサルバドル生まれ・育ちの人で、のちに米国に移民してきた人達のためだけのものです。もしお差支えなければ、これらの質問にご回答ください。その他の人々は、(33) へ***
　a)あなたは、エルサルバドルに住んでいた時、国政または地方選挙、或いはその両方において投票していましたか。
　1 □ はい、すべての選挙で　　2 □ はい、ほとんどすべての選挙で
　3 □ はい、半々くらいの割合で　　4 □ いいえ、ほとんど
　5 □ いいえ、まったく　　6 □いいえ、18歳未満でしたので
　7 □ いずれにも該当しない回答：(　　)

もしお差支えなければ、これらの質問にもご回答ください。差支えのある方は、(33) へ
　b)あなたは、エルサルバドルにいらっしゃった時、以下の活動または運動に何か参加されていましたか。
　4番以外は、複数回答可。
　1 □ はい、選挙運動に：(具体的に：　　)
　2 □ はい、労働・社会運動に：(具体的に：　　)
　3 □ はい、コミュニティ・ボランティア活動に：(具体的に：　　)
　4 □ いいえ、何にも
　5 □ いずれにも該当しない回答：(具体的に：　　)

引き続き、アメリカ合衆国の国内政治に対するあなたの立場や態度に**ついて**、お答え頂きたいと思います。
(33)　あなたはどの政党を支持していますか。
　1 □ 民主党　　2 □ 共和党
　3 □ その他の政党（政党名をお書き下さい:　　)
　4 □ 無所属　　5 □ 答えたくありません　　6 □ 興味がありません
　7 □ いずれにも該当しない回答:（　　)

アメリカ合衆国籍をお持ちの方、すなわち合衆国市民の方は、(34) 番を続けてお答えください。

アメリカ合衆国籍をお持ちでない方は、(38) 番にお進みください。

(34)　***この質問は、***アメリカ***合衆国市民の方全員へ***の質問です。
　その他の方は、*(38)* 番へ進んで下さい。
　あなたは、アメリカ合衆国において有権者登録をしていますか。
　1 □ はい　　2 □ いいえ

(35)　**この質問は、アメリカ合衆国の国籍を取得した移住者の方に対する質問です。**

その他の方は、*(36)* 番へ進んで下さい。

(35) 番の質問は、「帰化」米国人だけに向けた質問です。

a)あなたは、何年にアメリカ合衆国の国籍を取得されましたか。

(　　)

b)あなたがアメリカ合衆国の国籍を取得した理由は何ですか。複数回答可。

1 □ 米国政治に有権者として参加するため
2 □ 米国政治への参政権を行使して、在米エルサルバドル系の非市民や在留資格のない移民の権利獲得や地位向上を求めて闘うため
3 □ 本国にいる家族・親族を呼び寄せるため／呼び寄せられるから
4 □ 米国に永住する気になったから
5 □ エルサルバドル国籍を捨てる気になったから
6 □ 十分な報酬が得られる安定した職に就けるから
7 □ エルサルバドルと米国との間の行き来がより頻繁に容易くできるようになるから
8 □ 1994年の「住民提案第187号」に代表される「反移民」的な風潮が米国内で強まりつつあったので
9 □ 片親または両親がアメリカ合衆国の国籍を取得したので
10 □ その他：(　　)

(36) あなたは、以下の選挙のうち、投票に行ったことがあると記憶する選挙はいくつありますか。 まず、該当する選択肢を選んでください。
これは、アメリカ合衆国市民の方全員への質問です。

1 □ 1992年大統領選挙：Clinton vs. Bush
2 □ 1994年中間選挙
3 □ 1996年大統領選挙：Clinton vs. Dole
4 □ 1998年中間選挙
5 □ 2000年大統領選挙：Bush vs.Gore
6 □ 2002年中間選挙
7 □ 2004年大統領選挙：Bush vs. John Kerry
8 □ 2006年中間選挙
9 □ 2008年大統領選挙：Obama vs. McCain
10 □ 2010年中間選挙　　(　　)個

(37) あなたは、今年のアメリカ合衆国大統領選挙に投票に行くつもりですか。
これも、アメリカ合衆国市民の方全員への質問です。

1 □ はい、行きます　2 □ おそらく行きます　3 □ まだわかりません
4 □ おそらく行きません　5 □ いいえ、行きません

(38) a) あなたは米国においてストライキや行進その他の抗議行動に参加したことがありますか。

1 □ はい、何度もあります　2 □ はい、数回あります
3 □ はい、1～2回あります　4 □ いいえ、全然ありません *

*b)参加したことがない理由は何ですか。複数回答可。

1 □ コミュニティや社会の中で目立ちたくない
2 □ 警察沙汰になる可能性がある
3 □ 悪く見られたくない
4 □ 混乱を招いたり暴力沙汰になる可能性がある
5 □ （参加したことで）結果的に職を失った人間が何人もいる
6 □ やっても何も変わらないと思う
7 □ 他にもっと有効な手段があると思う

8 □ 抗議することが好きではない
9 □ そうする機会がなかった、あるいはそうした機会があるのを知らなかった
10 □ 忙しくて、時間的余裕がなかった
11 □ 忙しくて、精神的に余裕がなかった
12 □ 経済的に苦しくて、精神的に余裕がなかった
13 □ かつて本国で参加して嫌な思いをした
14 □ 渡米してきたばかりで、どうしていいかわからなかった
15 □ 体力的・健康的に無理だと思った
16 □ 自分は経営者・為政者側の人間、あるいはそれに同調する人間である
17 □ いずれにも該当しない回答：(　　)

(39) a)あなたはボランティア活動やコミュニティ活動をしていますか。
1 □ はい *　　2 □ いいえ **

*b)している場合、どういうことをしていますか。＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

**c)しない理由は何ですか。複数回答可。
1 □ 興味がない　　2 □ する価値がない　　3 □ 単にしたくない
4 □ 英語が満足に使えない　　5 □ スペイン語が満足に使えない
6 □ 忙しくて、時間的に余裕がない
7 □ 忙しくて、精神的に余裕がない
8 □ 経済的に苦しくて、精神的に余裕がない
9 □ コミュニティや社会の中で目立ちたくない
10 □ いずれにも該当しない回答：(　　)

(40) あなたは2006年春から何度か行われている移民法に関する一連の大規模な抗議デモのいずれかに参加しましたか。
1 □ はい　　2 □ いいえ　　3 □ 答えたくありません

次が、このアンケートの最後の質問です。

(41) あなたは、近い将来、或いは、遠い将来に、ここを去り、エルサルバドルに住むつもりですか。10番以外は、複数回答可。
1 □ はい、とにかくできる限り早く帰りたい
2 □ はい、思っているよりも米国での生活がうまくいかないことがわかったら
3 □ はい、米国での移民に対する風当たりが強くなったら
4 □ はい、本国の治安が改善したら
5 □ はい、本国の経済が改善したら
6 □ はい、本国の政情が安定したら
7 □ はい、本国で裕福に暮らせるだけのお金を儲けたら
8 □ はい、一緒に暮らしている子供が一人立ちしたら
9 □ はい、他の動機で：(　　)
10 □ いいえ、そのつもりはありません

お時間を割いて頂き、誠にありがとうございました。

・・・・・・・・・・

〈スペイン語版（抜粋）〉

La Encuesta (versión para el agosto de 2012) Los Ángeles, agosto de 2012

Esta encuesta es para los residentes del orígen salvadoreño que tienen 18 años o más.

Por favor, rellene los espacios en blancos con su respuesta en letras de molde a cada pregunta o marque con X el cuadrado correspondiente.

(1) a) Por favor, escriba ***el nombre de la ciudad*** o del área no incorporada ***donde vive usted:***
( ).
b) Si usted vive en la ciudad de Los Angeles, por favor escriba el nombre de la comunidad donde usted vive, o, puede escribir ***el código postal:*** ( ).

(2) ¿Cuál es su sexo? 1 ☐ Femenino 2 ☐ Masculino

(3) ¿Qué edad tiene usted? ( ) años de edad

(4) ¿A qué raza o grupo piensa usted mismo/a que pertenece? Puede marcar con X uno o más cuadrados para indicar de qué raza o grupo se considera usted.

1 ☐ *White* (Blanca) 2 ☐ *Black* (Negra)
3 ☐ Mulato 4 ☐ Indígena americana (pipiles o cualquier grupo)
5 ☐ Mestizo 6 ☐ Salvadoreño
7 ☐ Latino 8 ☐ Hispano
9 ☐ *Hispanic* 10 ☐ *Salvadoran American*
11 ☐ *African American* 12 ☐ Otra raza u otro grupo : ( )

(5) ¿Cuál de éstas es usted?

1 ☐ Nacido/a en El Salvador e inmigrado/a en los Estados Unidos
2 ☐ De la primera generación nacida en los Estados Unidos
3 ☐ De la segunda generación nacida en los Estados Unidos
4 ☐ De la tercera generación o más nacida en los Estados Unidos
5 ☐ Ninguna de éstas: ( ) →

súmese a uno de los dos grupos abajo mencionados conforme a su caso para seguir contestando a las siguientes preguntas.
Los que respondieron "**Nacido/a en El Salvador ...**" , por favor sigan contestando a las preguntas del número **(6)** en adelante.
Los que respondieron ***"(de alguna) generación nacida en los Estados Unidos"***, por favor salte a la pregunta del número ***(9)***.

. . . . . .

〈英語版（抜粋）〉

Questionnaire (version for August, 2012) Los Ángeles, August, 2012

This questionnaire is on the residents of Salvadoran origin who are 18 years old or over.
Please fill in the blank(s) in block letters or mark the item(s) which apply with an X.

(1) a) Plaese name ***the city*** or the area not incorporated ***where you live***. ( )
b) If you live in the City of Los Angeles, please also name your neighborhood in the city, or you can write your zip code: ( ).

(2) Which is your sex? 1 ☐ Female 2 ☐ Male

(3) How old are you? ( ) years old

(4) Which racial or ethnic group(s) do you think you belong to? You CAN check MORE THAN ONE box.

1 ☐ White 2 ☐ Black

3 ☐ Mulato
4 ☐ the Indigenous people in the Americas (pipiles or others)
5 ☐ Mestizo
6 ☐ Salvadoran
7 ☐ Latino
8 ☐ Hispano
9 ☐ Hispanic
10 ☐ Salvadoran American
11 ☐ African American
12 ☐ Other racial or ethnic group : ( )

(5) Which of the followings are you?

1 ☐ Born in El Salvador and immigrated to the United States
2 ☐ First generation, born in the United Staes
3 ☐ Second generation, born in the United Staes
4 ☐ Third or third-plus generation, born in the United Staes
5 ☐ Other: ( )

If you answered that you are **born in El Salvador,** please go on **to Question (6)**.
If you answered that you are **U.S.-born,** please skip to **Question (9).**

. . . . . .